

中部様式

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

安城市総合交通会議 (安城市)

平成 20 年 7 月 31 日設置

平成 30 年 4 月 1 日 安城市地域公共交通網形成計画策定
(計画期間：平成 30 年 4 月～令和 5 年 3 月)

令和 3 年 6 月 22 日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和 5 年〇月〇〇日 令和 4 年度評価結果送付

＜安城市の特性と背景＞

- 愛知県のほぼ中央に位置し、人口188,783人（令和4年12月現在）総面積86.05 k m²。
地域特性でもある自動車関連企業が多いことから自動車分担率は7割近くであり非常に高く、公共交通の利用率は約1割と低い状況である。

公共交通が目指す姿

日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち

（安城市地域公共交通網形成計画 2018年度～2022年度）

公共交通体系の基本方針

基本方針 1

多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化

基本方針 2

将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化

基本方針 3

公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開

基本方針 4

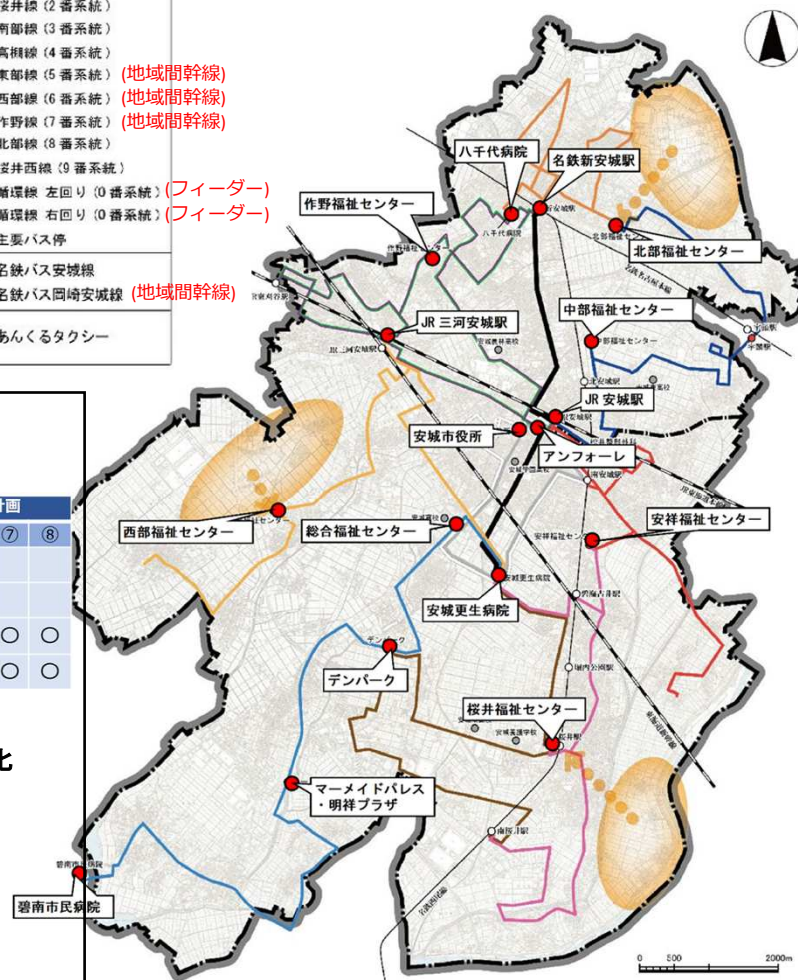
みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化

安城市地域公共交通網形成計画の維持・活性化計画

安城市地域公共交通網形成計画の基本方針	公共交通の維持・活性化計画							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
基本方針 1	○	○	○	○	○	○		
基本方針 2	○		○	○				
基本方針 3	○	○					○	○
基本方針 4							○	○

- ① サービス水準に応じた運行
- ② 名鉄バス岡崎・安城線の維持・活性化
- ③ 名鉄バス安城線の延伸検討
- ④ 循環線の路線見直し
- ⑤ あんくるバスのサービス改善
- ⑥ あんくるタクシーのサービス改善
- ⑦ 公共交通の利用促進策
- ⑧ (仮称)地域の交通を応援する会の取り組み

＜ネットワーク概要図＞



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

3

<これまでの主な取り組み>

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察 ・今後の方針
★コミュニティバスの継続運行 【①】 (フィーダー補助)	・コミュニティバスの運行を継続 【フィーダー補助路線】 ・循環線右・左 ・安祥線	前年度に比べて利用者が増加 (R3: 43万人 →R4: 47万人)	・移動制限の緩和によるお出かけ需要の回復に加えて、各種利用促進策の実施により利用者は増加 ・コロナ感染リスクの不安から公共交通利用を控えた方が安心して利用できるように、コロナ対策状況を発信するとともに、観光施策と連携した利用促進策により、新たな利用者の獲得を目指す
待合環境の改善 【⑤】	・あんくるバス北部線の「北部公民館」バス停に隣接公有地を活用した待合スペースを整備	公共施設用地の一部を待合スペースとして整備したことにより安全な待合環境を提供	・バス停に隣接する公共施設や地域と協働した民地等の活用による待合環境の充実や、危険なバス停の解消等により、安全なバスサービスの提供に努める
小・中学生へのバス利用機会の提供 【⑦】	・利用対象を拡充し、小学生だけでなく中学生も対象とした、夏休み期間使用可能な無料券及びバスでの観光施設等への行き案内を配布	・中学生を加えることでコロナ前以上の利用者増加が図られた(R2～3は中止) (R1: 3,500人 →R4: 3,800人)	・引き続き、小中学生への無料キャンペーンを実施する ・高校生等を対象とした通学利用可能なサービス提供に向けて改善を図る
一般タクシーに関する情報発信の充実 【⑦】	・一般タクシー乗場における事業者の電話番号を掲載 ・一般タクシー情報を時刻表やバスマップ、バス活用ガイドに掲載	・公共交通の認知度向上に貢献 (H26:認知度73.3% →R4: 76.5%)	・一般タクシーの利用促進のための情報発信を引き続き強化・拡充することにより、利用促進を図る ・わかりやすい情報発信とするため、乗り継ぎ拠点の情報発信内容の改善を検討する
公共交通PRチラシの作成・配布 【⑦】	・大河ドラマ「どうする家康」に関連し、岡崎市と連携し市内外の観光施設と公共交通PRチラシを作成・配布	・公共交通の認知度向上に貢献 (H26:認知度73.3% →R4: 76.5%)	・市内外の公共施設や観光施設と連携し、公共交通でのお出かけを促進するための施策を検討・実施する。
★地域公共交通計画策定に係るアンケート調査及び地域での意見交換会 【⑦⑧】 (計画策定補助)	・地域公共交通計画策定に係る市民アンケート及び、地元集会や地域の会議にて、地元住民等とのヒアリングや意見交換を実施	・安城市の公共交通に関する課題を抽出 ・公共交通に関する意見を共有することで、住民の公共交通への理解度が増加	・調査結果に加えて、上位計画・社会情勢等を踏まえ、安城市の公共交通に関する課題を抽出・分析し、本市の公共交通を維持活性化のため、次期公共交通計画へ反映する ・意見交換会実施により、当該地区の利用者が増加した等の副次的な効果が得られた。今後も継続して実施し、住民の意識の醸成を図る



(待合環境の改善)



(情報発信の強化)



(公共交通PRチラシ)



(意見交換会の状況)

※赤字は国庫補助対象事業

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

4

<これまでの主な取り組み>

【参考】過去実施・継続実施施策

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察 ・今後の方針
(H30.10.1～) あんくるバス循環線の見直し及び 名鉄バス安城線の デンパーク延伸 【③④】	利用者の増加に伴い、運転手の休憩時間を考慮し、ダイヤの見直し等以下の内容を実施 ・左まわりと右まわりを同様のルートで運行 ・循環線にパターンダイヤを導入 ・名鉄バス安城線を市内の主要な観光施設であるデンパークへ一部ルート延伸	・コロナ前（R1年度）まではバス利用者増加（H26：83万人→R1：87万人） ・公共交通全体の不満割合の改善（不満割合0.2～18.4%減） ・あんくるバスの乗継の際の分かりやすさに関する不満度が改善（不満割合15.7%減）	・コロナ前のR1までは順調に利用者が推移していたが、R2よりコロナの影響により7割まで減少した。R3はやや回復傾向であるものの、コロナ前の8割程度の回復にとどまっている。 ・移動制限下においても、コロナ前の約7割の利用があり、市民の生活の足として欠かせない移動手段として定着している ・利用者を回復し、公共交通を維持・活性化するため、各種利用促進策を実施する
(H26～) バスロケーションシステム等による 運行情報の見える化【⑤】	・バスロケによるWEBや主要バス停設置のサイネージによる情報発信 ・Google Mapsをはじめとした乗換案内サービスに対応	・公共交通の認知度向上に貢献 （H26:認知度73.3%→R4：76.5%）	・公共交通の認知度が改善されたが、「バスで行ける施設の情報」や「運行時間」等、実際に利用するための認知度は依然として低いことから、これらの情報周知・PRのための施策を実施する
(H26～) 各種利用促進策 【②⑤⑦】	・主要バス停でバス案内人によるバス利用方法の案内 ・時刻表・バスマップの他、バス活用ガイドによる乗り方やお出かけプランの紹介 ・高齢者・障がい者や運転免許返納者を対象とした無料乗車制度の継続実施	・コロナ前（R1年度）まではバス利用者増加 ・公共交通の認知度向上に貢献 （H26:認知度73.3%→R4：76.5%）	・コロナにより減少した利用者回復のため、各種利用促進策を改善しながら継続実施する ・新たな利用者獲得のため、通学利用可能なサービスとするためのダイヤ改善や観光施策と連携し、観光情報と公共交通での行き方を紹介する利用促進策を展開する
あんくるバス・あんくるタクシーの サービス改善 【⑤⑥】	・定時制確保のための定期的なダイヤ改正 ・沿線利用者のニーズに応じたバス停の見直し ・あんくるタクシーについて、R1年10月より小川地区にて1便、里地区にて3便増加 ・コロナ対策（ビニールカーテン設置、消毒）	・コロナ前（R1年度）まではバス利用者増加 ・公共交通全体の不満割合の改善 ・あんくるバスの乗継の際の分かりやすさに関する不満度が改善	・公共交通全体の不満度はおおむね減少し改善がはかれたものの、不満割合が高い地区もあり、不満解消に向けたサービスの改善を実施する



(バスロケ設置状況)



(時刻表・バス活用ガイド)



(バス案内人(更生病院))

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

5

<安城市地域公共交通網形成計画における目標と評価指標>

計画目標・評価指標・評価指標		達成状況					考察
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
公共交通が 目指す姿 「日常生活に なじむ公共交 通をみんなが 利用すること によって、気 軽にお出かけ できるまち」	年間利用者数 (公共交通全体) 1,602万人	1,520 万人	1,588 万人	1,606 万人	1,206 万人	1,232 万人	・ R1年度までは順調に推移していたが、新型コロナウイルスの影響によりR2年度に大きく落ち込んだ。R3年度は回復傾向だが目標は未達成 ・ R2年度の厳しい移動制限下でも約7割の利用があり、現在の公共交通が生活に欠かせない移動手段として定着している
	(鉄道) 1,511万人	1,432 万人	1,501 万人	1,520 万人	1,143 万人	1,165 万人	
	(バス) 91万人	88 万人	87 万人	86 万人	63 万人	67 万人	
	R 4 フィーダー系統 循環線 196,000人 安祥線 29,000人	・ 循環線 160,847人(前年比104%) (右: 81,220人、左: 79,627人) ・ 安祥線 26,996人(前年比127%)					・ 両路線とも目標を下回ったが、利用促進策の継続実施やワクチン等の普及により、昨年度より回復
	公共交通の 不満割合減少 現況未満	※現況 15.0～ 56.9%	24.0～ 54.3%			12.3～ 46.4%	・ これまで実施した各種施策により、1地区を除き不満度が減少 ・ 増加した地区も3.4%増と限定的
基本方針 1 「多様なネッ トワークが相 互に連携した 持続可能な公 共交通ネッ トワークの維 持・活性化」	乗り継ぎに関す る不満割合減少 (名鉄バス安城線) 現況未満	※現況 27.8%	42.2%		41.0%		・ パターンダイヤ導入に伴うダイヤの見直しや分かりやすい情報発信に努めたことにより、名鉄バス岡崎・安城線及びあんくるバスは目標を達成したが、名鉄バス安城線は未達成 ・ 名鉄バス安城線で乗継先のほとんどを占める鉄道との乗り継ぎダイヤの設定や、R4.3より「CentX」による他公共交通との乗換案内サービスによる情報発信を実施しているが、「待ち時間」や「乗り継ぎ情報、乗り継ぎの分かりやすさ」の不満度が高い
	(名鉄バス岡崎・安城線) 現況未満	※現況 36.8%	33.3%		21.1%		
	(あんくるバス線) 現況未満	※現況 43.5%	48.4%		38.0%		

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

6

<安城市地域公共交通網形成計画における目標と評価指標>

計画目標・評価指標・評価指標		達成状況					考察
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
基本方針2 「将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化」	各拠点、デンパークの年間バス利用者数(JR安城駅) 146,100人	145,318人	145,318人	137,894人	104,864人	107,666人	・R1年度までは順調に推移していたが、新型コロナウイルスの影響によりR2年度に大きく落ち込んだ。R3年目は回復傾向だが目標は未達成 ・H30年度に実施したパターンダイヤ導入及び他路線との乗継を考慮したダイヤ改正によるサービス改善や、デンパークへの延伸によりR1年度までは順調に推移しており、公共交通軸の維持・活性化が図られた
	(JR三河安城駅) 15,800人	17,330人	17,217人	18,348人	13,961人	16,678人	
	(名鉄新安城駅) 93,900人	90,841人	95,691人	94,899人	69,735人	72,898人	
	(名鉄桜井駅) 17,800人	18,705人	18,897人	17,564人	13,625人	13,643人	
	(デンパーク) 7,400人	3,246人	4,018人	4,094人	2,321人	3,231人	
基本方針3 「公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開」	公共交通サービスの認知度 現況値以上	※現況 73.3%	75.6%			76.5%	・時刻表、バスマップ、バス活用ガイドによる情報発信や、夏休みの小中学生無料乗車券やきーぼー市への無料券配布による利用機会の創出、乗り方教室の実施による公共交通の使い方の周知・PRにより、認知度が上昇し、目標を達成
基本方針4 「みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通体系の実現」	地域と行政の取り組み件数 (新規施策のみ) 累計5件	1件	1件	1件	0件	2件	・公共交通を勉強するための資料配布、バスの乗り方教室、地域の集会での意見交換会等を実施し、目標を達成
	(仮称)地域の交通を応援する会の立ち上げ 新規立ち上げ	—	—	—	—	—	・地域との取り組みにより住民の意識の醸成が図られ、移動も含めた地域のあり方の検討を行う可能性がある地区も見受けられたが、会の立ち上げには至っていない

＜安城市地域公共交通網形成計画における評価と次期計画に向けた取組方針＞

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
公共交通全体や拠点におけるバス停の利用者数は未達成だが、昨年度に比べて増加傾向	・新型コロナウイルス蔓延防止対策やワクチンの普及等に加えて、各種利用促進策の継続実施により利用者は回復傾向 ・一方で生活様式の変化により、利用促進策を実施しなければこれ以上の回復は望めない（中部運輸局調査結果より） ・この回復傾向を維持するために、コロナ対策情報等の発信や各種利用施策を継続実施するとともに、観光施策等との連携により新たな利用者を獲得することにより、公共交通の利用者回復を目指す
中学校区単位における公共交通全体の不満度は減少し、改善が図れている	・全体的に改善したが、不満の高い地区もあり、地区の公共交通を担うバスや一般タクシーの不満解消に向けた施策が必要 ・バスにおいて、不満割合が高い項目解消のためには、事業費の増加を伴うが、一方で市の負担・利用者の負担額は現状を望む声が多数であることから、現状の事業規模での改善を実施する ・一般タクシーにおいて、不満割合の解消には台数増加が伴うが、運転手不足のため、十分な供給ができていないことから、運転手不足解消に向けた施策を実施する ・不満が減少したが、「どちらともいえない」という回答割合が増加。地域ヒアリングの結果や公共交通の移動分担率が低い本市の状況を鑑み、地域住民が公共交通を「自分ごと」として認識するための意識の醸成を図るとともに、地域住民自らが主体となって公共交通を考える仕組みの構築を目指す

＜安城市地域公共交通網形成計画における評価と次期計画に向けた取組方針＞

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
バス路線の乗継に対する不満は1路線を除いて改善	・乗継しやすいダイヤやわかりやすい乗継情報等、サービス改善を図り、これらの情報や便利なサービスの存在・利用方法を周知・PRするとともに、待合環境の改善等による待ち時間の不満軽減に向けた取り組みを検討実施する
公共交通に対する認知度の増加は増加傾向	・公共交通の存在自体への認知度が高いが、実際に利用する情報（ダイヤや行ける場所等）の認知度は低いことから、バス活用ガイドや乗り方教室等により、利用するための情報の周知を図る
地域と行政で取り組む施策は通年に渡り新たな施策を展開し、住民の意識の醸成を図っているが「(仮称)地域の交通を応援する会」の立ち上げには至っていない	・本市において、公共交通の移動分担率は低く、実際に利用するための情報の認知度も低い。地域ヒアリングや意見交換の継続実施、地域の交通を学ぶ勉強会等を通じ、地域住民の意識の醸成を図るとともに、地域住民だけでなく、行政や交通事業者がそれぞれの役割や課題を共有するための場として、住民が主体となって公共交通を考える「(仮称)地域の交通を考える会」の立ち上げを目指す

現計画の評価結果に加えて、上位計画・社会動向等を反映した「安城市地域公共交通計画(2023.4～2028.3)」を策定

基本方針1

多様な交通手段が連携した
公共交通ネットワークの維持・活性化

基本方針2

将来の人口構造や社会情勢の変化に対応した
公共交通サービス等の確保

基本方針3

持続可能な公共交通体系の構築に向けた
関係者が連携・協働した利用促進策の継続展開

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	評価できる取組 ・バスロケーションシステムデータを活用し、各路線の運行状況を解析し、慢性的な遅れの解消に向けたダイヤ改正を行ったことを評価します。 ・外国語版あんくるバスマップを公共施設等において配布し、利用者利便を図ったことを評価します。 ・時刻表、バスマップ、バス活用ガイドを用いたバスの乗り方教室を主に高齢者を対象に実施し、バスロケーションシステムの使い方などを周知することで自家用車から公共交通への転換を推進したことを評価します。	・バスロケーションシステム等による情報提供やバス案内人、バス活用ガイド等により、利用促進を引き続き実施した。 ・夏休み無料乗車キャンペーンの対象を、これまでの小学生に加えて中学生も対象として実施し、更なる利用促進を図った。	・これまで取り組んできた利用促進事業に改善を加えて継続的に実施することで、利用者の回復とさらなる活性化を図りたい。
	期待する取組 ・次期地域公共交通計画の作成にあたって、バス利用実態調査、市民アンケートの結果、関係するバス・タクシー運行事業者の現状などを分析し、地域に足を運ぶなど踏み込んだニーズの把握により、公共交通の維持活性化に向けた取り組みに十分反映させたものとなるよう期待します。 ・「まちかど講座」を通じて新たな需要の開拓や新型コロナウイルス感染予防対策の周知に取り組むことを期待します。 ・地域間幹線系統について、隣接市及び運行事業者とともに今後のあり方や活性化方策など検討されるよう期待します。	・次期地域公共交通計画作成にあたり、市民アンケートをはじめとした各種調査結果に加えて、交通事業者や地域住民との意見交換会等により、事業実施者、利用者双方の目線での意見を収集・分析し、計画に反映させた。 ・「まちかど講座」の他、地域の勉強会への講師派遣や、地元集会での意見交換会により公共交通のPRを実施するとともに、安城市公式HPや公共施設のサイネージを活用した新型コロナ対策に関する情報発信を実施した。 ・大河ドラマ「どうする家康」に起因する観光施策との連携により、市内だけでなく隣接する岡崎市とも連携し、市内外の観光と公共交通をPRすることにより、利用促進を図った。	・次期計画「安城市地域公共交通計画」を策定し、次年度以降も引き続き公共交通の維持・活性化に向けた取り組みを推進する。

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	評価できる取組 ・コミュニティバス全ての停留所の名称表示に外国語表記を追加し、また、バス時刻表及びバスマップを外国語版に修正されたことが確認できました。 ・バスロケーションシステムによる情報提供、Googleマップ等での検索対応、主要バス停に案内人を配置した対応を引き続き実施されていることを評価します。 ・バス時刻表及びバスマップを作成し、調査事業が計画どおり実施されたことが確認できました。	・バスロケーションシステム等による情報提供やバス案内人、バス活用ガイド等により、利用促進を引き続き実施した。	・これまで取り組んできた利用促進事業に改善を加えて継続的に実施することで、利用者の回復とさらなる活性化を図りたい。
	期待する取組 ・R3年度に予定しているあんくるバスの利用実態調査を確実にを行い、ダイヤや乗り継ぎ等の改善に繋がることを期待します。 ・あんくるタクシーの利用について、利用ニーズやあんくるバスとの接続など、運行形態の分析や改善策を検討されることを期待します。 ・上記の他、周辺市町村との連携を含め、公共交通ネットワークの構築に向けて取り組むことを期待します。	・あんくるタクシーの利用について、地元町内会長の協力のもと、乗り方教室と利用ニーズの調査を実施した。 ・バス利用実態調査を実施し、安城市の課題を整理するとともに、次年度策定予定の地域公共交通計画へ反映する。 ・周辺市との定期的な情報交換を行い、公共交通ネットワークの維持に努める。	・R3バス利用実態調査及びR4市民アンケートより、これまでの取組みを評価するとともに課題を整理し、次期計画に反映させる。 ・周辺市と連携した利用促進策を検討する

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日

＜安城市地域公共交通網形成計画における評価の推進体制＞

・ 評価・検証の考え方及びその手順

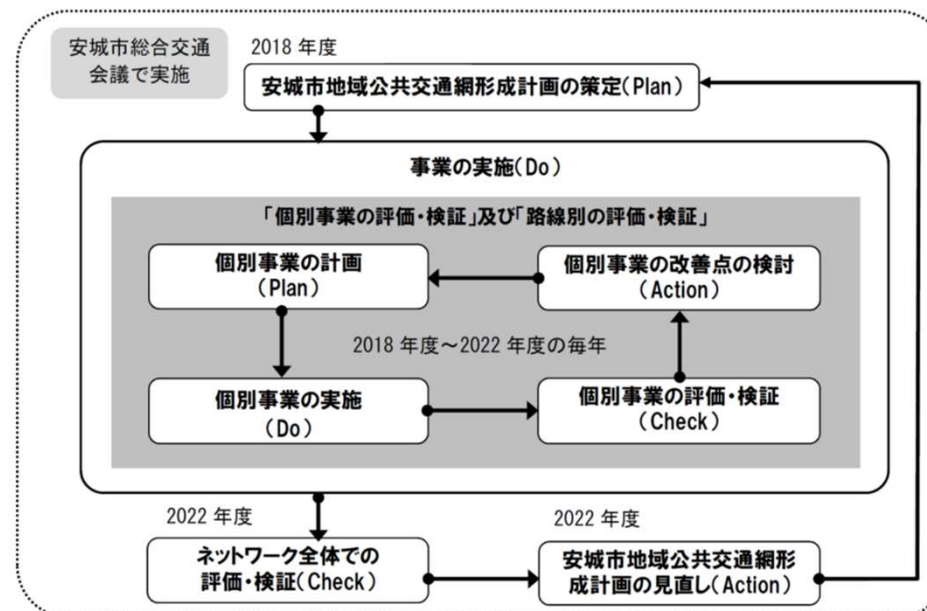
本計画で実施する事業は、事業計画、事業実施、評価・検証、改善策の検討といったPDCAサイクルを毎年繰り返し実施することで効果的に推進するものとします。

また、実施した事業の効果や達成状況を総合的に捉え、本計画における評価指標の達成状況を評価・検証することで最終年度に安城市地域公共交通網形成計画の見直しを実施します。

＜評価・検証の考え方＞

- 公共交通ネットワークの評価・検証、改善策の検討は、安城市総合交通会議（事務局が必要な整理を行い、その結果を各委員が協議）で実施
- 個別事業は、毎年実施する「個別事業の評価・検証」により各事業の実施状況や目標値の達成状況を評価・検証し、目標値を達成できていない場合は、その要因の分析と改善策の検討を実施
- バス路線の運行は、毎年実施する「路線別の評価・検証」により個別路線の利用状況、運行状況、目標値の達成状況を評価・検証し、対策が必要な場合は、その要因の分析と改善策の検討を実施
- 目標年次の2022年度を最終年度として、段階的に評価・検証を踏まえた改善策を検討するとともに、最終年度では上位関連計画の見直し等を踏まえ、安城市地域公共交通網形成計画の見直しを実施

図 公共交通ネットワークの評価・検証の流れ（PDCAサイクル）



【協議会の実施状況】

- ・ 令和4年度第1回安城市総合交通会議 6月20日
主な議題 安城市地域公共交通策定に係る市民アンケート内容について
- ・ 令和4年度第2回安城市総合交通会議 9月27日
主な議題 安城市地域公共交通計画（素案）について
- ・ 令和4年度第3回安城市総合交通会議 12月13日
主な議題 安城市地域公共交通計画（原案）について
- ・ 令和4年度第4回安城市総合交通会議 1月10日
主な議題 安城市地域公共交通計画（最終案）について
- ・ 令和4年度第5回安城市総合交通会議 3月（予定）
主な議題 安城市地域公共交通計画に係るパブリックコメントの実施結果について